

特62-749



\*1200800265119\*

再版



海

員

必

携

(增補改正)



始



# 海員必携全

## 目次

特 62

749

- 海商編拔萃
- 船舶法
- 船舶法
- 船舶法施行細則
- 船舶法施行細則
- 船舶法施行細則

附

船員手帖交付申請書	.....	一〇三
海員雇入公認申請書	.....	一〇四
海員雇止公認申請書	.....	一〇六
海員雇入契約更新公認申請書	.....	一〇七
海員雇入契約變更申請書	.....	一〇八
海員名簿滅失(毀損)ニ付公認申請書	.....	一〇九

目次



八三一  
五二八  
二七一  
頁

目次

手數料納付書	一一〇
船中常備書類	一一一
海事局官制	一三六
海事局名稱位置管轄區域表	一三八
海務署名稱位置管轄區域	一三九
管海官廳事務取扱所	一四三
●船舶職員法	一四六
●海員懲戒法	一五五
●水難救護法	一六七
●海上衝突豫防法	一八二
●海員試驗規程	二〇二
●海港檢疫法	二二三
●戶籍法拔萃	二三〇
●石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ船員法施行ノ件	二三三
●陸軍省令第二十六號改正	二三三

●海員雇人雇止届出之ノ件

附 録

謄本抄本下附申請書(書式)	一
未定年者カ要スル法定代理人ノ承諾書(書式)	二
委任狀(雇入止)書式	三
船長交代ニ付公認申請書(書式)	四
船長就職ニ付認證申請書(書式)	五
船長退職ニ付認證申請書(書式)	六
船員手帖返還届(書式)	七
海難報告(書式)	八

◎海商編拔萃

第一章 船舶及船舶所有者

第五百三十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第五百三十九條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五百四十一條 船舶所有權ノ讓渡ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百四十二條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場  
合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受  
人ニ歸スヘキモノトス

第五百四十三條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル  
船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限  
ニ在ラス

第五百四十四條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ  
爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ  
他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶ノ運送貨  
及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ  
請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ル、コトヲ得但船舶所  
有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス  
前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テ  
ハ之ヲ適用セス  
第五百四十五條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得スシテ更ニ

航海ヲ爲サシメタルトキハ前條ニ定メタル權利ヲ行フコト  
ヲ得ス

第五百四十六條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關  
スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之  
ヲ決ス

第五百四十七條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利  
用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第五百四十八條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大  
修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異  
議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ  
買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他  
ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要  
ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知  
ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス  
第五百四十九條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利

用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責ニ任ス  
第五百五十一條 損益ノ分配ハ航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ爲ス

第五百五十二條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス  
第五百五十二條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス  
船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第五百五十三條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス  
一 船舶ノ讓渡、委付若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト

爲スコト

二 船舶ヲ保險ニ付スルコト

三 新ニ航海ヲ爲スコト

四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト

五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百五十四條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ航海ノ終ニ於テ遲滯ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百五十五條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ

國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得

第五百五十六條 船舶ノ賃借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其効力ヲ生ス

第五百五十七條 船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有權ノ權義務ヲ有ス

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリテハ第三項ニ對シテ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生ス但先取特權者カ其利用ノ船所有者ニ對シテモ其効力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有權者、備船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ル、コトヲ得ス

第五百五十九條 海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第五百六十條 船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ由リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

第五百六十二條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船舶國籍證書
- 二 海員名簿
- 三 屬具目錄
- 四 航海日誌
- 五 旅客名簿
- 六 運送契約及積荷ニ關スル書類
- 七 稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第五百六十三條 船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百六十四條 船長ハ航海ノ準備力終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更

セシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十六條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第五百六十七條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十八條 船長ハ船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 船舶ヲ抵當ト爲スコト



二 借財ヲ爲スコト  
 三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五  
 船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ  
 額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸場港ノ價格ニ依  
 リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セサリシ費用  
 ナク除スルコトヲ要ス  
 第五百六十九條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ  
 費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船  
 長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得  
 第五百七十條 船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサル  
 ニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣ス  
 ルコトヲ得  
 第五百七十一條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハ  
 サルニ至リタルモノト看做ス  
 一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其  
 修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ

二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ  
 前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ  
 其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前  
 ニ有セシ價額トス  
 第五百七十二條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ  
 積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五百六  
 十八條第二項ノ規定ヲ準用ス  
 第五百七十三條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項  
 ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス  
 船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲  
 シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキ  
 ハ何時ニモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニモ船長ヲ解任スルコ  
 トヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ  
 船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求  
 スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレ  
タルトキハ他ノ共有者ニ對シテ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ  
買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共  
有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス  
第五百七十五條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經  
過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船  
長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去  
ルコトヲ得ス

第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔ト  
ス

第五百七十八條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因  
ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受クタルトキハ船舶所有者

ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス  
前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ  
請求スルコトヲ得但シ其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ

傷痍ヲ受クタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得  
第五百七十九條 航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航  
海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長

シタルトキハ海員ハ其割合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求スル  
コトヲ得但シ航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給  
料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者  
ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費  
用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコ  
トヲ得

一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルト

二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ  
 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ  
 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料

ノ外一個月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ  
 二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ  
 三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十四條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ得ス

第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間

ハ之ヲ一年ニ短縮ス  
 海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨ  
 リ一年ヲ超ユルコトヲ得ス  
 第五百八十六條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場  
 合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上  
 陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス  
 第五百八十七條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス  
 一 船舶カ沈没シタルコト  
 二 船舶カ捕獲セルコト能ハサルニ至リタルコト  
 三 船舶カ捕獲セラレタルコト  
 前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇  
 入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得  
 第五百八十八條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ  
 有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得  
 第五百八十九條 第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ  
 準用ス

◎船舶法

明治三十二年三月七日法律第四十六條

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス  
 一 日本官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶  
 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶  
 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リ  
 テハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式會社ニ在リテハ取締  
 テハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締  
 役ノ全員カ日本臣民タルモノ、所有ニ屬スル船舶  
 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ  
 全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶  
 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務  
 擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶ヲ  
 以テ日本船舶トス  
 第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス  
 第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港  
 船舶法

ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキハ海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本國旗ヲ掲ケテ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且名稱船籍港番號積量喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得タルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル

トキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條

船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條

日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條

日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解撤セラ

レタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且

遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ

六個月間分明ナラサルトキ亦同シ

第十五條

日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄区域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管

第十六條

海官廳ノ所在地ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十七條

外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六個月ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條

前二項ノ期間ヲ越ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

船舶法

第十九條 有効期間滿了前ト雖モ其効力ヲ失フ  
之ヲ準用ス 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二  
百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主  
トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス  
第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ  
關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本  
ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ  
處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル  
目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス  
日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章  
ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ貳百圓  
以上貳千圓以下ノ罰金ニ處シ船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲サシメタ  
ル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下  
ノ罰金ヲ附加ス  
前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ  
例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ拾圓以

上千圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本國旗ヲ掲ケサルトキ  
ハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ  
又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタ  
ルトキハ船長乃至船主者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十  
六條ノ規定ハ船長ニ代リテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用  
ス  
第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十

第六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス  
第三十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ  
其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其  
他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス  
第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又  
ハ貿易事務官之ヲ行フ

附則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ  
本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセ  
サルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署  
ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年  
第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他  
ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨ  
リ之ヲ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル  
船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クハ  
キトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登録ヲ爲シ且船舶國籍證書  
ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船  
免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ効力ヲ得ス  
第三十八條 本法施行ノ際登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所  
有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ  
於テハ其假免狀ハ有効期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍  
證書ト同一ノ効力ヲ得ス但船舶カ船籍港ニ到着シタルトキ  
ハ此限ニ在ラス

登簿船假免狀ノ有効期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコト  
船舶法

船舶法



ヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クル  
コトヲ得

第三十九條

第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル  
事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ  
之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ  
本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之  
ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ  
削除ヲ請ハサルトキ亦同シ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五  
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條

本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ  
未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メ  
タル六個月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條

本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

法律第四十六號參照

明治十二年二月十日第五條布告ハ西洋形商船ヲ沿海管廳ノ所轄ニ付セラレ、件  
同治十二年五月十五日第十九號布告ハ航海公證規則ヲ廢シ西洋形船免狀改正ノ件、同  
十四年二月十七日第十九號布告ハ蒸氣船十噸、帆船二十噸以下及湖川港灣ヲ  
運轉スルモノノ西洋形商船免狀ヲ受有スルニ及ハサル件ナリ

◎船員法

明治三十二年三月七日法律第七十四號

第一章	總則
第二章	船員手帖
第三章	船長
第四章	海員
第五章	紀律
第六章	罰則

附則

船員法

第一章 總則

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノ  
 ミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船  
 員ニ付テハ此限ニ在ラス  
 第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船  
 長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第二章 船員手帳

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船  
 員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス  
 申請人ハ戶籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ  
 證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申  
 請ヲ爲ス場合ニ於テ其地ノ管海官廳カ戶籍吏ノ職務ヲ行フ  
 トキハ此限ニ在ラス

- 一 氏名
- 二 本籍地
- 三 身分
- 四 出生ノ年月日

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得  
 ルコトヲ要ス未成年者カ船員手帳ノ交付ヲ申請スルニハ前  
 條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證ス  
 ルコトヲ要ス  
 第五條 船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ

船員法

第六條 關シテハ未成年者ト同一ノ能力ヲ有ス  
キハ其到着ノ日ヨリ一个月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スル  
コトヲ要ス

第七條 船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲  
クタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至  
第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事  
實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正  
ヲ申請スルコトヲ要ス

第八條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リ  
タルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到着シタル日ヨリ  
之ヲ起算ス

第九條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之  
ヲ準用ス  
第十條 船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク更ニ其  
交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 船員手帖カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滞ナク其書換ヲ申請  
スルコトヲ要ス

第十二條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ  
毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到着シタル後遲滞ナク船員  
手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十三條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ  
之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請  
スルトキハ此限ニ在ラス

第十四條 船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還  
スルコトヲ要ス

第三章 船長  
第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對  
シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得  
第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百  
船員法

第六十二條 第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ、其他危険ノ虞アルトキハ、船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタルトキハ、船長ハ

二十四時間内ニ其港ノ管海官廳ニ報告シ、其港ニ航海官廳ナキト

キハ、其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ、其檢閲ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他

船中ニ在リタル者ヲ呼出シテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 左ノ場合ニ於テハ、船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管

海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ

四 船舶カ捕獲セラレタルトキ

五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至

第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ、船長ハ其

港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲ス

コトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ、船長ハ報告

書ヲ作リ、其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ、船長ハ人命、船舶及

ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中

ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ、其指揮スル船舶ヲ去

ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ、船長ハ互ニ人命及ヒ船舶

ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコトヲ要ス  
但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ此限ニ非ラス

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス  
但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ此限ニ非ラス

第二十二條 船員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺産ヲ保管スル事ヲ要ス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船

員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルヲ得  
前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滞ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章 海員

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ船員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀聞カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

船員法

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スル  
コト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル  
若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署  
セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ拇  
印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ  
要ス

第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシ  
テ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帖  
ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方  
ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ  
得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者  
雙方ヲ呼出シ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出セシメ雇止ノ公

認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立  
ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名  
簿及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ  
提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スル  
コトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滞  
ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其  
職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコト  
ヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更  
ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スル  
コトヲ要ス

第二十七條及第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖  
カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳  
ニ公認ヲ申請スルトキハ此限ニ非ラス

第三十五條 海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依  
リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交  
付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク第二十九條ニ定  
メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 紀律

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ  
得

- 一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルト
- 二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ
- 三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ
- 四 海員カ喧争シタルトキ
- 五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又

六 ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ  
海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルト

七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ

八 船員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又

十 ハ吸煙シタルトキ

十一 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ

第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス  
一 監禁  
二 上陸禁止  
三 加役  
四 減給

第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス  
上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ

船員法

算入ス  
加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一

日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス  
減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス  
第四十條 懲戒ノ適用ハ行為ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但

二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス  
第四十一條 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他

ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管  
又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行為ヲ  
爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘

束スルコトヲ得  
第四十三條 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ

對シテ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得  
第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マ

サルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船  
長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得

第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要  
ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船地方官廳又ハ管海官廳ニ

援助ヲ求ムル者トヲ得  
第六章 罰則

第四十六條 詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者  
ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下

ノ罰金ヲ附加ス  
詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認  
證ヲ受ケタル者亦同シ

第四十七條 第七條、第九條、第十條、第十一條、第二十九條、  
第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、  
訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコ  
トヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 虛僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ



一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ増減變換シテ行使シタルモ亦同シ

第四十九條

重禁錮ニ處シ又ハ參拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ

二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ

三 船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十條

金ニ處ス

左ノ場合ニ於テハ船長ヲ拾圓以上五百圓以下ノ罰

一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ

二 船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ

三 船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四 船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條

船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二項以上第二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條

船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十三條

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡サハルトキハ一年以上三年以下ノ

船員法

重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長カ第二十條ノ規定ニ違反シテ告知ヲ爲サ、ルトキハ拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ參拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十六條 船舶ニ急迫ノ危険アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十七條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ違反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定

ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレ

タル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五

圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船

中ニ在ラサルトキハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ脱船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處

ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルト

キハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルト

キハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發

火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上

百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要

ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下

ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加

ヘ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルヲ以テ前條第一項ノ罪

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨ケタル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪

ヲ犯シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死

ニ致シタルトキハ刑法第百六十九條ノ例ニ依リテ處斷ス

第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ

刑法各本條ノ例ニ照シ一等級ヲ加フ

第七十條 海員カ上長ニ對シテ歐打創傷ノ罪ヲ犯シタル

トキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等級ヲ加フ

第七十一條 船長カ旅客、船員其他海中ニ在ル者ニ對シテ其

職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以

下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ

一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

二 脱船シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十三條 船員ガ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆沒シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

附則 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第七十六條 明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ罰則ヲ適用ス

第七十七條 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セス

前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ効力ヲ有ス

前項ノ期間メタル公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其効力ヲ有ス

第七十九條 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付

船員法

テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得  
第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

◎船舶法施行細則

明治三十二年六月十二日  
逕信省令第二十四號

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ  
機械力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト  
否トニ拘ハラズ之ヲ汽船ト看做ス  
主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス  
第二條 浚渫船ハ推進器ヲ有セサレハ之ヲ船舶ト看做サス  
第三條 船籍港ハ各市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル  
第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

一 試運轉ノトキ  
二 積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ  
三 正當ノ事由アルトキ

第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書  
一 前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ掲クルコトヲ得  
二 祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇  
泊スル場合ニ限ル

二 前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ  
三 進水ノトキ  
四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條 船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照  
査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ検査官吏ハ何時ニテモ

第七條 本則ノ規定ニ依リ管海官應ニ書類ヲ差出スヘキ場合  
ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添附  
スヘシ

第二章 積量ノ測度

第八條 船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度  
ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差

出スヘシ  
前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 製造ニ依リ船舶ヲ取得シタル場合又ハ製造後未タ積  
量ノ測度ヲ申請セサル船舶ヲ取得シタル場合ニ在リ  
テハ造船者ニ於テ製造地、進水ノ年月日ヲ證スル書  
面及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ瀛機、瀛罐ノ製造  
者ニ於テ瀛機、瀛罐製造ノ年月日ヲ證スル書面  
所有權ノ取得、持分ノ移轉、所有者ノ國籍取得ニ依リ  
又ハ商會社其他ノ法人ニシテ船舶法第一條第一項  
第三號第四號若クハ第二項ニ掲ケタル條件ノ具備ニ  
依リ船舶ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ在リテハ前號ニ  
掲ケタル事項ノ外造船者、瀛機及瀛罐ノ製造者ノ氏  
名又ハ名稱並船舶ノ原名ヲ證スル書面

船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ積量總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ前項第二號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第九條 積量ノ測度ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査執行地マテ航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第十條 積量ノ測度ヲ申請スル者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ  
第十一條 第八條及前條ノ規定ハ船舶法第四條第三項ノ規定ニ依リ外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ積量ノ測度ヲ行フ場所ハ當該官廳之ヲ指定ス  
第十二條 管海官廳ニ於テ積量ノ測度ノ申請ヲ受ケタルトキ

ハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ第二號書式ノ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ

管海官廳ハ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付シ同時ニ第八條第二項及第三項ニ依リ差出シタル證書ヲ還付スヘシ

第十三條 前條ノ規定ハ第十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滞ナク船舶籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第十四條 第九條但書ノ場合ニ於テ船舶ノ所在地當該管海官廳ノ管轄區域外ナルトキハ該官廳ハ其所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ第十二條ニ規定スル事務ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ニ船舶件名書ヲ送付スベシ

第十五條 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ船舶籍港ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ船舶籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第九條第十條第十二條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準

第十六條

國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得但量噸ノ甲板下部ノ噸數及甲板間ノ噸數ヲ測度スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ此限ニ在ラス

第十三條

船舶ノ登記ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シ

第十七條

船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シ

第三章

船舶ノ登録ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シ

管海官廳ハ關係書類ヲ調査シ

漁船及機關ヲ有スル帆船ニ在

一

番號

二

信號符字

三

種類

四

名稱

五

船籍港

六

甲板ノ層數及種類

七

外板ノ材料

八

船骨ノ材料

九

檣ノ數

十

網具ノ裝置

十一

船首ノ形狀

十二

船尾ノ形狀

十三

造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル長

十四

船舶積量測度方法ニ依ル量噸甲板下ノ長

十五

造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル幅

十六

船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅

十七

造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル深



十八 船舶積量測定方法ニ依ル量噸甲板下ノ長中央ニ於  
 テ該甲板ノ下面ヨリ船底内張板ノ上面マテノ深

十九 支水隔壁ノ數

二十 最大喫水  
 二十一 噸噸甲板下部ノ噸數  
 二十二 噸噸甲板上部ノ噸數

甲板間ノ噸數

船首樓ノ噸數

船尾樓ノ噸數

圓室ノ噸數

其他蔽圍セル場所ノ噸數

總噸數

登簿噸數

船員常用室ノ噸數

二七 機關室ノ噸數  
 二八 汽罐ノ種類及數  
 二九 汽罐ノ材料  
 三〇 汽筒ノ數  
 三一 汽筒ノ徑  
 三二 汽筒ノ長  
 三三 推進器ノ種類及數  
 三四 公稱馬力  
 三五 製造地  
 三六 進水ノ年月日  
 三七 汽罐製造ノ年月日  
 三八 汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱  
 三九 汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱  
 四〇 汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱  
 四一 汽罐製造者ノ氏名又ハ名稱  
 四二 造船者ノ氏名又ハ名稱

船舶法施行細則

四十三 原名 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所並共有者ナルトキ

帆船ニ在リテハ前項第一號乃至第二十六號第三十七號第四

十二號乃至第四十四號ノ事項ヲ登録ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第二項第一號第

三號乃至第五號第七號乃至第九號第三十六號第三十七號第

四十二號乃至第四十四號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス

一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長

二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅

三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面マテノ深

四 積石數

第二項第十四號第十六號第十八號及前項ノ長、幅及深ハ曲

尺ヲ以テ測リタル尺度ヲ登録ス

第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シ

タル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

一 所有者氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ

二 船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若クハ削除スルトキ

三 所有者ニ於テ自己ノ行為ニ因ルニアラスシテ船舶ノ名稱ノ爲メニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第二十條 甲管海官廳ノ管轄区域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄区域内ニ變更スル場合ニハ甲

管海官廳ニ變更登録ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ

謄本及附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶ノ登録用紙ヲ

閉鎖ス

船舶原簿ヲ謄本ニハ現存セル登録ノミヲ謄寫ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依

船舶法施行細則

リ其船舶原簿ニ登録ヲ移ス  
第二十一條 船舶籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳

ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス  
前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條 第十七條第二項第六號乃至第十二號第十九號乃  
至第二十一號第二十八號乃至第三十五號ノ事項ニ變更ヲ生

シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係  
ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船舶籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ

之ヲ差出スヘシ  
第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 船舶籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶  
ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登録ヲ爲サントスルトキハ船

舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ノ  
交付ヲ受クルコトヲ得  
前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添付スヘシ

第二十四條 第十七條第二項第十三號乃至第十八號第二十二

號乃至第二十七號又ハ第四項各號ノ事項ニ變更ヲ生シタル  
場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ第十五條ノ申請

ト同時ニ之ヲ爲スヘシ  
第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申

請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證  
ヲ添附シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

第二十六條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタ  
ルトキハ船舶原簿ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然

之ヲ變更シタルモノト看做ス但第二十一條ノ場合ハ此限ニ  
在ラス

第二十七條 船舶法第十四條ノ規定ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サ  
ントスル者ハ申請書ニ登記濟證ヲ添へ船舶籍港ヲ管轄スル管

海官廳ニ之ヲ差出スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶ノ登録用紙ヲ閉鎖ス

第二十八條 船舶所有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコト  
ヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

管海官應ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタル

トキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又

ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限り船舶原

簿ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送

付ヲ請求スルコトヲ得

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條 管海官應ニ於テ第十七條ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲

シタルトキハ第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニヨリ該

證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登録ノ申請ト同時

ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書ニ記載シタル

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタル場合ニ之

ヲ準用ス

第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請

セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船舶港ヲ管轄スル

管海官應ニ之ヲ差出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ

之ヲ請受ケントスルトキ亦同シ

第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官應

ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但第二十條第

一項ノ場合ニ於テハ乙管海官應之ヲ交付ス

第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其

交付アリタルトキハ遲滞ナク舊證書ヲ返還スヘシ

第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ

請受ケントスル船舶長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍

證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキ

ハ其書類ヲ添ヘ當該管海官應ニ差出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於

テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滞ナク船舶國籍

證書ヲ返還スヘシ

假船舶國籍證書ノ様式ハ第四號書式ニ依ル

第三十七條 船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所

有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

第三十八條 假船舶國籍證書ノ有効期間ハ其船舶ノ船籍港ニ

回航セントスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其

他ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ル期間

ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海

官廳之ヲ定ム

第三十九條 假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ

タルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ

差出スヘシ

第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ

準用ス

第四十條 假船舶國籍證書ハ其効力ヲ失ヒタルトキ又ハ船

舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ最寄管海官廳

ニ返還スヘシ

第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍

證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルト

キハ其事由ヲ説明スヘシ

船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之

ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ管海官廳ハ其無

効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第四十二條 第二十八條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國

籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之

第五章 國旗及船舶ノ標示

第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ

一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ

二 帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ

三 外國ノ港ヲ出入スルトキ

四 外國貿易帝國港ヲ出入スルトキ

船舶法施行細則

第五 法令ニ別段ノ定アルトキ  
第四十四 條 船舶ニ標示スヘキ事項及其方法ハ左ノ如シ但石  
數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ第四十五條ノ規定ニ  
依ル

一 船首兩舷ノ外部ニ船舶ノ名稱、船尾外部ノ見易キ所  
ニ船名及船籍港ノ名稱ヲ四吋以上ノ國字及羅馬字ヲ

二 以テ記スルコト  
中央ノ船梁ニ船舶ノ番號、總噸數及登簿噸數ヲ彫刻

三 シ父ハ其番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘著スルコト  
船首材及船尾材、船尾材ナキトキハ舵柱ノ外部兩側

面ヘ喫水ヲ示ス爲メ龍骨ノ下面、副龍骨ヲ有スルト  
キハ其下面直線ヨリ最大喫水ニ至ルマテ一呎毎ニ六

吋ノ羅馬數字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記シ  
數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致スルコ

ト

第四十五條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ前條ニ定メタ

ル方法ニ依リ船尾ニ船舶及船籍港ノ名稱、船梁ニ船舶ノ番

號及積石數ヲ標示スヘシ

第四十六條 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久ニ耐ユル方法ヲ以テ

之ヲ爲スヘシ

第四十七條 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナ

ク其標示ヲ改ムヘシ

第六章 登録稅、手數料、旅費及日當

第四十八條 登録稅法ノ規定ニ從ヒ登録稅ヲ納付スルニハ左

ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登録稅納付書ヲ

登録ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ

一 第十七條第一項ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第一

項第一號

二 船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ

共有者ノ持分ノ變更ニ依リ登録ヲ爲ス場合第二十二

條又ハ第二十四條ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條第

三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第

三號  
四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第

二號  
第四十九條 登録税法第四條第一項第四號ニ付テハ第十七條

第二項各號又ハ第四項各號ノ事項ノ變更ヲ以テ每一箇トス

第五十條 登録税納付書ニハ船舶ノ名稱、積量及税金額ヲ

記載シ登録税法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ

箇數ヲモ記載スヘシ  
第五十一條 第二十九條ノ手数料ハ左ノ金額ニ相當スル收入

印紙ヲ申請書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ  
一 謄本ノ交付 一枚ニ付金貳拾錢  
二 抄本ノ交付 一枚ニ付金貳拾錢  
三 船舶原簿ノ閲覽 金貳拾錢

第五十二條 登録税納付書又ハ前條ノ申請書ニ貼用シタル收

入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者

ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第五十三條 船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査執行地以外ニ

検査官吏ノ出張シタルトキハ船舶所有者ハ成規ノ旅費及日

當ヲ當該管海官廳ニ納付スヘシ

第七章 罰則

第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍

證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其義務ヲ

怠リタルトキハ船舶所有者ヲ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則  
第五十五條 本則ハ船舶法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十六條 明治二十六年二月遞信省令第三號、同年三月遞信省令

第六號失踪船取扱規則、同年四月遞信省告示第八十五號及明

治二十九年四月遞信省令第三號登簿船免狀取扱規則ハ本則施

行ノ日ヨリ廢止ス  
第五十七條 船舶法施行ノ登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル

船舶法施行細則

船舶ニシテ船舶法ノ規定ニ依リ登録ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クヘキモノ、所有者ハ登簿噸數十五噸以上又ハ積石數百五十石以上ノ船舶ニ付テハ船舶法施行ノ後始テ定期検査又ハ特別検査ヲ申請スルトキ當該検査官廳ニ、登簿噸數十五噸未滿ノ汽船及検査ヲ要セサル船舶ニ付テハ船舶法施行ノ日ヨリ起算シ二年内ニ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測度ヲ申請スヘシ

前項ノ船舶ニシテ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ遲滞ナク船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ前項ノ申請ヲ爲スヘシ

第五十八條 第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シタル検査官吏ハ積量ノ測度ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第五十九條 前條ノ規定ニ依リ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ノ

所有者ハ遲滞ナク船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

- 一 船舶ノ番號、名稱及積量
- 二 船舶港
- 三 船舶共有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分

第六十條 前條ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ

- 一 登記ノ謄本
- 二 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽罐ノ製造者ニ於テ其製造ノ年月日ヲ證スル書面
- 三 船鑑札ヲ受有スル船舶ニ在リテハ當該地方官廳ニ於テ原名、製造地、進水ノ年月日及造船者ノ氏名又ハ名稱ヲ證スル書面

第六十一條 管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ依リ登録ヲ

船舶法施行細則



爲ストキハ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル製造年月ヲ以テ進水ノ年月日ト看做ス

第六十二條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク該免狀ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク該鑑札ヲ原地方官廳ニ返還スヘシ

第六十三條 第五十四條ノ罰則ハ前條ノ義務ヲ怠リタル船舶所有者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ハ登録ヲ了ルマテ第四十四條又ハ第四十五條ノ標示ヲ爲サハルコトヲ得

第六十五條 第四十條及第五十四條ノ規定ハ船舶法施行ノ際受有スル假免狀ニ之ヲ準用ス

(第一號書式) 積量測度申請書

漁船何丸

一 船籍港

二 積量

三 造船者ノ氏名又ハ名稱

四 製造地

五 進水ノ年月日

六 漁機製造者ノ氏名又ハ名稱

七 漁機製造者ノ年月日

八 漁機製造者ノ氏名又ハ名稱

九 漁機製造者ノ年月日

十 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所

十一 並共有者ナルトキハ其持分

十二 船舶管理人ノ住所氏名

十三 測度ヲ受ケントスル場所

右者今般新造致シ(又ハ何國人何某ヨリ買受ケ等)貴管内ニ船籍港ヲ定メ候ニ付積量測度相成度關係書類何通相添此段及申請候也

明治 年 月 日

船舶法施行細則

何市町村(何府縣何國何郡) 總噸數何噸又ハ積石數何石 何某又ハ何會社(何府縣何國何郡何市

町村) 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

何某又ハ何會社 何府縣何國何郡何市町村

住所 何 某印

(海官管廳名)

御 中

(備考)

- 一 船名、郡市町村名、氏名及名稱ニハ振假名ヲ附記シ外國ノ名稱ナルトキハ外國文字ヲ附記スヘシ
- 二 原名ト稱スルハ國籍取得前ニ於ケル最近ノ船名ヲ謂フ
- 三 前記件名中船舶ノ種類ニ依リ事項ナキモノハ之ヲ省略スヘシ

(第二號書式)

船舶件名書

瀛 船何丸

- 一 甲板ノ層數及種類
- 二 外板ノ材料
- 三 船骨ノ材料
- 四 檣ノ數
- 五 鋼具ノ裝置
- 六 船首ノ形狀
- 七 船尾ノ形狀

何層、重(輕又ハ覆)甲板  
 鋼、鐵又ハ木  
 鋼、鐵又ハ木  
 何本  
 「シツプ」「パーク」「パーケンタイン」  
 「ブリツク」「プリガンタイン」「スグ  
 ーナ」「カツター」「スルーブ」等  
 曲形、斜形又ハ方形  
 圓形、橢圓形又ハ方形

- 八 造船規程ニ定ムル方法
- 九 船舶積量測定方法ニ依リテ測リタル長
- 十 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル幅
- 十一 船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅
- 十二 造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル深
- 十三 船舶積量測定方法ニ依ル量噸甲板下ノ長ノ中央ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内張板ノ上面マテノ深
- 十四 支水隔壁ノ數
- 十五 二重底ノ位置及容量
- 十六 最大喫水
- 十七 總噸數
- 十八 登簿噸數
- 十九 瀛機ノ種類及數
- 二十 瀛罐ノ種類及數

何呎何時  
 何尺何寸何分  
 何呎何時  
 何尺何寸何分  
 何呎何時  
 何尺何寸何分  
 幾何  
 全通何噸又ハ船首何噸、船尾何噸、前艙何噸、後艙何噸等  
 何噸  
 何噸  
 何噸  
 聯成、聯成冷瀛、重聯成、三聯成等、何箇  
 箱形、橢圓形、バルビュー水管式等  
 何箇

船舶法施行細則

二十一 瀛鐘ノ材料  
 二十 瀛鐘ノ數  
 十九 瀛鐘ノ徑  
 十八 瀛鐘ノ長  
 十七 推進器ノ種類及數  
 十六 公稱馬力  
 十五 何月何日某所ニ於テ臨檢シタル處前記ノ通相違無之候也  
 十四 右明治何年何月何日

明治 年 月 日

(備考) 本書式中ノ件名ハ瀛船ヲ標準トシテ列舉シタルモノナルヲ以テ帆  
 船ニ付テハ第十七條第三項乃至第五項ノ規定ニ依リ變換又ハ省略スヘシ

官 氏 名 印

所屬官廳

- (第三號書式) 甲 瀛船ニ用ユル分 豎一尺一寸五分 横一尺
- (第三號書式) 乙 帆船ニ用ユル分 豎一尺一寸五分 横一尺
- (第三號書式) 丙 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ用ユル分 豎一尺一寸五分 横一尺
- (第四號書式) 甲 瀛船ニ用ユル分 豎一尺一寸五分 横一尺
- (第四號書式) 乙 帆船ニ用ユル分 豎一尺一寸五分 横一尺

- (第四號書式) 乙 帆船ニ用ユル分 豎一尺一寸五分 横一尺
- (第四號書式) 丙 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ用ユル分 豎一尺一寸五分 横一尺
- (第五號書式) 假船舶國籍證書 (書式略ス)

假船舶國籍證書交付申請書

船 何丸

- 一 船籍地
- 二 製造者
- 三 進水年月日
- 四 甲板ノ層數
- 五 甲板ノ材料
- 六 外板ノ材料
- 七 船骨ノ材料
- 八 橋ノ數
- 九 鋼具ノ裝置
- 十 船首ノ形狀

船舶法施行細則

何市町村(何府縣何國何郡)  
 何府縣何國何郡何市町村  
 何某又ハ何會社  
 明治又ハ西曆何年何月何日  
 何層  
 鋼、鐵又ハ木  
 鋼、鐵又ハ木  
 「シツプ」「パーク」「パーケンダイン」  
 「アリツク」「ブリガンダイン」「スクー  
 ナー」「カッター」「スループ」等  
 曲形、斜形又ハ直形

- 十一 船尾ノ形状  
圓形、橢圓形又ハ方形  
何尺何寸何分
- 十二 船舶積量測定方法ニ依ル量噸甲板  
何尺何寸何分
- 十三 船舶最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨ  
何尺何寸何分
- 十四 船舶積量測定方法ニ依ル量噸甲板  
何尺何寸何分
- 十五 量噸甲板下部ノ噸數  
何噸
- 十六 量噸甲板上部ノ噸數  
何噸
- 十七 總噸數  
何噸
- 十八 登噸數  
何噸
- 十九 船舶常用室ノ噸數  
何噸
- 二十 機關室ノ噸數  
何噸
- 二十一 瀛機ノ種類及數  
聯成、聯成冷瀛、重聯成、三聯成等 何箇
- 二十二 瀛機ノ種類及數  
諸形、橢圓形「ベピル」ユ」水管式等 何箇
- 二十三 推進器ノ種類及數  
外車、螺旋推進器等 何箇
- 二十四 瀛機製造者  
何某又ハ何會社
- 二十五 瀛機製造ノ年月日  
明治又ハ西曆何年何月何日
- 二十六 瀛機製造者  
何某又ハ何會社
- 二十七 瀛機製造ノ年月日  
明治又ハ西曆何年何月何日
- 二十八 船舶所有者又ハ共有者及持分  
何府縣何國何郡何市町村何番地何某又ハ何會社

- 二十三 推進器ノ種類及數  
何某又ハ何會社
  - 二十四 瀛機製造者  
何某又ハ何會社
  - 二十五 瀛機製造ノ年月日  
明治又ハ西曆何年何月何日
  - 二十六 瀛機製造者  
何某又ハ何會社
  - 二十七 瀛機製造ノ年月日  
明治又ハ西曆何年何月何日
  - 二十八 船舶所有者又ハ共有者及持分  
何府縣何國何郡何市町村何番地何某又ハ何會社
- 右者今般新造致シ(又ハ何國人何某ヨリ買受ケ等)候ニ付假船舶國籍證書交付相成  
度船舶法第十五條(又ハ第十六條)船舶法施行細則第三十七條ニ依リ關係書類何通  
相添此段及申請候也

明治 年 月 日

住 所 氏 名 印

(管海官廳名)

御 中

備考 本書式中ノ件名ハ瀛船ヲ標準トシテ列舉シタルモノナルヲ以テ帆船  
ニ付テハ第四號書式ノ乙、丙書式ニ記載シタル件名ニ對照シ變換又ハ省  
略スヘシ

船舶法施行細則

遞信省令第二十四號參照

明治二十六年五月十日 遞信省令第三號ハ西洋形船登簿船免狀下付出願中航海ヲ要スルトキ又ハ船籍港外ニ於ケル場合ニ假免狀下付出願方及其効用期限ノ件ナリ  
同年三月十日 遞信省告示第八十五號ハ西洋形船舶ノ名稱變更出願及許可方ノ件ナリ  
同年六月十日 遞信省告示第八十五號ハ西洋形船舶ノ名稱變更出願及許可方ノ件ナリ

◎船員法施行細則

明治三十二年六月十二日 遞信省令第二十五號

第一章 總則

- 第一條 船員法又ハ本則ノ規定ニ依ル申請ハ特ニ明文ヲ掲ク  
ル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 代理人ニ依リテ前條ノ申請ヲ爲ストキハ代理人ハ其  
權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
- 第三條 船員法及本則中最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ト稱  
スルハ最初ニ到着シタル管海官廳アル港ノ管海官廳ヲ謂フ
- 第四條 本則第二章乃至第四章ノ事務ハ管海官廳ニ於テ當事  
者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ休暇日ト雖モ之ヲ  
行フコトアルヘシ
- 第二章 船員手帖
- 第五條 船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帖ノ交  
付ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官

船員法施行細則

應ニ差出スヘシ

船員法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外申請者ハ同項ニ掲  
クル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ申請書ニ  
添附スヘシ但申請書ニ其證明ヲ受ケタルトキハ此限ニアラ  
ス

第六條 未成年者ハ前條ノ規定ニ從フ外左ノ事項ヲ記載シ法  
定代理人ノ署名捺印シタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

一 未成年者ノ氏名及本籍地

二 船員ト爲ルコトヲ許シタル旨

三 船員ト爲ルコトヲ許シタル年月日

第七條 船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セントス  
ル者ハ船員手帖ヲ添ヘ同法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク  
外訂正ヲ要スル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書  
ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

第八條 船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帖ノ交付又ハ

書換ヲ申請セントスル者ハ其事由及從來受有ノ船員手帖ヲ  
交付シタル管海官廳ノ名稱ヲ最寄管海官廳ニ疏明シ且書換  
ヲ申請スル場合ニハ船員手帖ヲ差出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但  
船員法第十一條但書ノ場合ハ此限ニアラス

第九條 船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返  
還セントスル者ハ其事由ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ船員手帖  
ヲ差出スヘシ

第十條 船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ現ニ受有  
スル船員手帖ヲ最寄管海官廳ノ檢閱ニ供シ更ニ其交付ヲ申  
請スヘシ

第十一條 本章ニ掲クル申請ハ日本ニ於クル管海官廳ニ之ヲ  
爲スハキモノトス

第十二條 船員手帖ノ様式ハ第二號書式ニ依ル

第三章 船長

第十三條 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿

ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滯ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ

之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ

遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後遲滯ナク書式

ニ從ヒ航海日誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日時、場所其他關

係ノ事項ヲ記載スヘシ

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ

四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ

五 船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去

六 リタルトキ

七 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ

八 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲

シタルトキ

九 船員法第四十五條ニ依リテ援助ヲ求メタルトキ

十 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ

十一 船中ニ於テ出生アリタルトキ

十二 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處

分シタルトキ

十三 前各號ニ掲クル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發

生シタルトキ

第十五條 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタ

ルトキハ其下船後遲滯ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ

船員法施行細則

第十六條 本章ニ揚クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、

挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之

ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様字體

ヲ存スヘシ

第十三條第二項ニ依リ書類ヲ訂正シタルトキハ前項ノ規定ニ從フ外其行端ニ訂正ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ船長之ニ認印スヘシ

第十七條 管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海

ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス

第十八條 船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ

以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 船舶ノ名稱

二 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

三 報告スヘキ事實ノ發生シタル場所及年月日時

四 報告スヘキ事實ノ顛末

五 報告書ノ認證ハ報告書ニ認證ヲ爲シタル旨及認證

第十九條

ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス

第二十條 海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ遲滞ナク

重立チタル海員二名以上ノ立會ヲ以テ其遺産ヲ取調ヘ遺産

目録ヲ作ルヘシ

一 遺産目録ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺産ノ

取調ニ立會ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス

二 死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日

三 遺産ノ品名及各品ノ數量、若シ金錢ナルトキハ其金額

三 遺産目録ヲ作リタル年月日

第二十一條 船長ハ戶籍法ノ規定ニ依リ死亡ニ關スル航海日

誌ノ謄本ヲ戶籍吏、公使又ハ領事ニ送付スル場合ニ於テハ

其港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到

著シタル港ノ管海官廳ニ遺産目録ヲ差出スヘシ

船中ニ死亡者アリタルモ前項ニ掲タル謄本ノ送付ヲ要セサ



ルトキハ船長ハ遺産目録ヲ作りタル港ノ管海官廳ニ其港ニ  
管海官廳ナキ場合又ハ航行中ノ管海官廳ニ遺産目録ヲ差出スヘ  
其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺産目録ヲ差出スヘ

第二十二條 前條ニ依リ遺産目録ヲ受ケタルトキハ管海官廳  
ハ其管海官廳又ハ其指定スル管海官廳ニ遺産ヲ差出スヘキ  
コトヲ船長ニ命スルコトヲ得

第二十三條 船長就職又ハ退職ノ認證ヲ申請セントスルトキ  
ハ就職又ハ退職及其年月日ヲ證スル書面ヲ添ヘテ船員手帖  
ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

第二十四條 第十九條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用  
ス

第四章 海員

第二十五條 海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ  
海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇  
入港ノ管海官廳ニ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到  
著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第二十六條 海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及  
之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一 甲板部海員  
第二 機關部海員  
第三 事務部海員  
同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條 當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメ  
ントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代  
理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條 一海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海

員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス  
當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條 被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十條 船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十一條 船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ海員手帖ニ現在ノ契約條項其他ノ事項ヲ記載シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十二條 船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク

前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ  
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

- 一 海員雇入期間滿了シタルトキ
- 二 海員死亡シタルトキ
- 三 商法第五百八十一條又ハ第五百八十三條ニ依リ海員ヲ雇止メタルトキ
- 四 商法第五百八十七條ニ依リ海員雇入契約終了シタルトキ

第三十四條 海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ掲クル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中其事實發生シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第四號書式ノ申請書  
二 被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條 第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ

第三十六條 被雇者總員又ハ船員法第二十七條第一項但書ノ

場合ニ在リテハ出頭シタル常事者總員署名捺印シタルトキ

ハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルトキハ其事由

並當事者ノ一方出頭セシテ公認ヲ爲シタルトキハ其事由

ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第二號ノ書類ト

共ニ之ヲ雇者ニ還付ス  
第三十七條 船員法第三十條第一項ニ依リ雇止ノ公認ヲ申請

スル者ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ

提出スヘシ  
第三十八條 管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當

事者雙方ヲ呼出シタルトキハ當事者ノ爭ニ關シ各申立ヲ爲

サシムヘシ此場合ニ於テ申請者ノ相手方ハ其申立ヲ確ムヘ

キ證憑アルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請ヲ

理由アリトスルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項船員法

第三十條ニ依リ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年

月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十條 海員雇入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキ

ハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ

添ヘテ更新ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキ

トキ又ハ航行中更新ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到着シタ

ル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ  
一 第五號書式ノ申請書  
二 第二十五條第二號ノ書類  
三 第三十四條第二號ノ書類

第四十一條 海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキ

ハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ

添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキ

船員法施行細則  
九十五

トキ又ハ航行中變更ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第六號書式ノ申請書  
二 契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第四十二條 第二十六條乃至第二十九條ノ規定ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第四十條 第二號及第三號ノ書類又前條第二號ノ書類ハ更新又ハ變更ノ公認アリタルトキ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十三條 海員公認ノ認證ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ船員手帖ニ公認及公認ノ認證ノ年月日並第三十一條又ハ第三十二條ノ場合ニ在リテハ公認ノ認證ノ事由及前條ノ場合ニ在リテハ更新又ハ變更ノ要旨ノ場所及年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ雇止ノ場合ハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス  
第四十四條 船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セン

トスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘ海員名簿ヲ作リタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中ノ作リタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第七號書式ノ申請書  
二 第二十五條第二號ノ書類  
三 被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載ス

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條及第二十八條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス

第四十六條 船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第四十七條 第十六條第一項ノ規定ハ認印ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ認證ヲ爲スニ當リ之ニ認印スルニアラサレハ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ハ其效ヲ有セス

第四十八條 公認及公認ノ認證ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ管海官廳外ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトアルベシ

第五章 手数料

第四十九條 手数料ノ額左ノ如シ

一 船員手帖ノ交付又ハ書換 一部ニ付 貳拾錢

二 船員手帖ノ訂正 船員法第三條第二項ノ事項一項ニ付 五錢

三 報告書ノ認證 一通ニ付 壹圓

四 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 貳拾錢

五 公認 被雇者一人ニ付拾錢

但船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ 被雇者一人ニ付 五錢

六 公認ノ認證 一件ニ付 五錢

前項ノ手数料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前項ニ定ムル所ノ二倍トス

第五十條 前條第一項第一號ノ手数料ハ第八號書式ノ手数料納付書ニ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前條第一項第二號乃至第六號ノ手数料ハ遞信大臣ノ告示スル場所ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ、其他ノ場所ニ於テハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

前二項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲ス  
ヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨  
ナシ

第六章 罰則

第五十一條 第十三條第二項第二十條第一項第二十一條第三  
十一條第二項又ハ第三十二條ニ違反シタル者又ハ第二十二  
條ノ命令ニ違背シテ管海官廳ニ遺産ヲ差出サ、ル者ハ貳圓  
以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第五十二條 本則ハ船員法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第五十三條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申  
請セントスルトキハ雇者ハ被雇者(海員)氏名、浦役人檢印  
及事故摘要ノ欄ヲ除ク外其各欄ニ相當ノ事項ヲ記載スヘシ  
第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ雇者ハ明治年月日雇主ト記  
載シタル下、被雇者ハ被雇者(海員)氏名ノ欄ニ署名捺印ス  
ヘシ

第五十五條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇止ノ公認ヲ申  
請セントスルトキハ本則施行前ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル者  
ナルト否トヲ問ハス雇止ノ事由、場所及年月日ヲ之ニ記載  
スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇  
入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セントスル場合ニ之ヲ  
準用ス

第五十七條 前二條ノ場合ニ於テ當事者ヲシテ署名捺印セシ  
ムルニハ各條ノ記載ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲サシムヘシ

第五十八條 海員ノ雇止、雇人契約ノ更新又ハ變更ノ公認ニ  
關シ第三十六條第三十九條第四十二條又ハ第四十六條ニ依  
リ管海官廳ニ於テ爲スヘキ記載及捺印ハ前條ノ署名捺印ヲ  
爲シタル次行ニ之ヲ爲ス

第五十九條 船員法施行ノ日ヨリ六個月間ニ海員雇止ノ公認  
ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ノ  
印ヲ捺シタル書面ヲ海員ニ交付スヘシ

船員法施行細則

- 一 船舶ノ名稱、番號、積量、船籍港及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
- 二 海員ノ氏名及本籍地
- 三 雇入ノ公認アリタル年月日、場所、海員ノ從事シタル職務及給料
- 四 雇止ノ公認アリタル年月日、場所及雇止ノ事由
- 第六十條 從來ノ海員名簿ニシテ二葉以上ノ用紙ヲ綴合セタルモノニハ管海官廳ニ於テ公認ヲ爲ストキ其各葉ニ契印スヘシ
- 第六十一條 第四章中海員名簿ニ關スル規定ハ前八條ニ於テ特ニ明文ヲ掲クル場合ヲ除ク外從來ノ海員名簿ニ付テ之ヲ準用ス
- 第六十二條 最後ノ雇止ノ公認アリタルコトヲ證スル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ハ船員法施行後六個月間ニ雇入ノ公認ヲ受クル場合及該期間滿了後初メテ雇入ノ公認ヲ受クル場合ニ雇者ヨリ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第一號書式

船員手帖交付申請書

私儀船員手帖受有致度左ニ氏名其他ノ事項ヲ具シ交付申請候也

明治 年 月 日

(住所)

(氏 名 印)

(管海官廳名)

御 中

- 一 氏名 (片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ)
- 二 本籍地

船員法施行細則

三 身分 (戸主家族ノ別、家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ)  
四 出生ノ年月日

第二號書式

船員手帖 (書式略ス)

第三號書式

海員雇入公認申請書

船種	船名	番 號	船 籍 港	航路又ハ航路定限	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
船 丸	第 一 號				
番 號	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職 務	雇入期間	給 料
		第 號			
		第 號			
		第 號			

右明治 年 月 日 二於テ雇入候ニ付公認相成度此段申請候也  
明治 年 月 日 雇 者 (氏名印)

(管海官廳名)

御 中

(備考) 海員名簿ニ飲食物又ハ其代料ニ關スル記事及特別契約條項ヲ記載シタルトキハ其寫ヲ添付スヘシ  
番號ハ海員名簿ニ記載シタル番號ト一致セシムヘシ第四號乃至第七號書式ニ付テモ亦同シ  
船員手帖ノ番號ノ欄ニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ所在地ヲ其番號ニ冠附シ之ヲ記載スヘシ例ヘハ東京ノ管海官廳ニテ交付シタル第一號ノ船員手帖ニハ東京第一號ト記載スルカ如シ第四號乃至第七號書式ニ付テモ亦同シ



第四號書式  
海員雇止公認申請書

船種	船名	番號	船籍港	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
船丸	第	號		
番號	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職	務雇止ノ事由
		第		
		號		
		第		
		號		
		第		
		號		

右明治 年 月 日 二於テ雇止候ニ付公認相成度此段申請候也

明治 年 月 日

雇者

(管海官廳名)

(氏名印)

御中

第五號書式

海員雇入契約更新公認申請書

船種	船名	番號	船籍港	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
船丸	第	號		
番號	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職	務更新ノ要旨
		第		
		號		
		第		
		號		
		第		
		號		

右明治 年 月 日雇入期間滿了ノ處明治 年 月 日ニ於テ右ノ通契約更新候ニ付公認相成度此段申請候也

明治 年 月 日

雇者

(管海官廳名)

(氏名印)

御中

船員法施行細則

第六號書式

海員雇入契約變更申請書

百八

船種	船名	番號	船籍港	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
船	丸	第 號		
番號	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職	務變更ノ要旨
		第 號		
		第 號		
		第 號		

右明治 年 月 日 二於テ右ノ通雇入契約變更候ニ付公認相成度此段申請候也

明治 年 月 日

雇者

(氏名印)

(管海官廳名)

御 中

第七號書式

海員名簿滅失(毀損)ニ付公認申請書

船種	船名	番號	船籍港	航路又ハ航路定限	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
船	丸	第 號			
番號	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職	務	雇入期間
		第 號			給
		第 號			料
		第 號			

右雇入ノ儀明治 年 月 日 二於テ公認相受候處海員名簿滅失(毀損)候ニ付公認相成度此段申請候也

明治 年 月 日

雇者

(氏名印)

(管海官廳名)

御 中

船員法施行細則

百九

(備考) 船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニハ當該被雇者ノ氏名ノ上ニ〇ヲ  
附スヘシ

百十

### 第八號書式

#### 手数料納付書

私儀 申請候ニ付右手数料金 圓 錢ニ相當スル收入印紙貼用納付候也

印紙

明治 年 月 日

(管海官廳名)

御 中

(氏名印)

(備考) 船員手帖ノ訂正ヲ申請スル場合ニハ訂正事項何箇、報告書ノ認證ヲ  
申請スル場合ニハ報告書何通、公認ヲ申請スル場合ニハ被雇者何人ト印紙  
ノ下ニ記載スヘシ

### ◎船中常備書類

(明治三十二年五月二十六日)  
(遞信省令第十九號)

商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲クル書類ノ  
件左ノ通定ム

第一條 海員名簿ハ第一號書式、屬具目錄ハ第二號書式、航海  
日誌ハ第三號書式、旅客名簿ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製  
スヘシ

前項ノ書類ハ書式ニ示ス順序ニ依リ之ヲ編綴シ且各頁ニ頁  
數ヲ附スヘシ但其紙數ハ適宜トス

第二條 前條ノ書類ニハ海事局ノ認可ヲ經テ書式ニ定メサル  
事項ヲ記載スル爲メ欄ヲ設クルコトヲ得

旅客名簿及航海日誌ハ沿海航船及航路定限ヲ内國ニ限リタ  
ル近海航船ニ在リテハ海事局ノ認可ヲ經テ書式ニ定ムル事  
項ヲ省略スルコトヲ得

第三條 第一條ノ書類ニハ各事項ニ付英譯ヲ附シ又ハ頁ノ上

船中常備書類

百十一

部ニ船舶及船舶所有者ノ名稱等ヲ附記シ又ハ記載心得等ヲ  
 掲クルコトヲ得  
 第一條ノ書類ハ書式ニ定ムル事項ノ位置ヲ變更シテ之ヲ調  
 製スルコトヲ得但其順序ヲ變更スルコトヲ得ス  
 第一號書式

(一)

簿	名	員	海
丸	船	積	番
船舶所有者ノ氏 名(名稱)及住所 船長氏名及住所	航路 定限	積量	船籍港 號

(二)

官廳記事									

(備考) (一)ハ書類ノ前付トス其裏面ハ白紙トスヘシ(一)ニ記載シタル事項ニ變  
 更ヲ生シタルトキ(一)ニ於テ之ヲ訂正スル餘白ナキ場合ニハ裏面ニ於テ之ヲ  
 訂正スヘキモノトス以下各號書式(一)ニ付テモ亦同シ  
 積量トアル下ニハ總噸數及登簿噸數、石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在  
 リテハ積石數ヲ記載スヘシ以下各號書式ノ(一)ニ付テモ亦同シ

(備考) 行數ハ適宜トス以下各書式中行ヲ附シタルモノニ付テモ亦同シ  
 船中常備書類



(五)

頁 番號	被 雇 者 署 名 捺 印	契 約 更 新 又 ハ 變 更 ノ 年 月 日 場 所 及 其 要 旨	雇 者 署 名 捺 印
			公 認
			明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日 公 認

(四)

頁 番號	被 雇 者 署 名 捺 印	雇 止 ノ 事 由	雇 止 ノ 年 月 日	雇 止 ノ 場 所	雇 者 署 名 捺 印
					公 認
			明 治 年 月 日		明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日		明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日		明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日		明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日		明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日		明 治 年 月 日 公 認
			明 治 年 月 日		明 治 年 月 日 公 認







第三號書式

(一)

誌	日	海		航
		丸	船	
船長氏名及住所	船舶所有者ノ氏名(名稱)及住所	航路 定限	積量	番號
			船籍港	

(二)

							官廳記事

十二	十一	十	九	八	七
其他船中ニ於テ異常ノ事變アリタルコト	船中ニ於テ死亡アリタルコト及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルコト	船中ニ於テ出生アリタルコト	船中ニ於テ犯罪アリタルコト	船員法第四十五條ニ據リ救助ヲ求めタルコト	船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルコト

(三)

番號	事項	記載ヲ爲シタル頁數
一	豫定ノ航路ヲ變更シタルコト	
二	人命又ハ船舶ヲ救ヒタルコト	
三	衝突其他ノ海難ニ罹リタルコト	
四	豫定セサル港ニ寄港シタルコト	
五	船舶ニ於テ急迫ノ危険アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルコト	
六	船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルコト	







死亡者ノ氏出生ノ男女ノ本籍地		死亡ノ年月死亡ノ戸主ノ死亡ノ場所ノ族稱ノ氏名ノ者トノ續柄		死亡者ノ氏出生ノ男女ノ本籍地		死亡ノ年月死亡ノ戸主ノ死亡ノ場所ノ族稱ノ氏名ノ者トノ續柄		死亡者ノ氏出生ノ男女ノ本籍地		死亡ノ年月死亡ノ戸主ノ死亡ノ場所ノ族稱ノ氏名ノ者トノ續柄	
年	月	日	時	年	月	日	時	年	月	日	時
明治	年	月	日	明治	年	月	日	明治	年	月	日

死亡者ノ氏出生ノ男女ノ本籍地		死亡ノ年月死亡ノ戸主ノ死亡ノ場所ノ族稱ノ氏名ノ者トノ續柄		死亡者ノ氏出生ノ男女ノ本籍地		死亡ノ年月死亡ノ戸主ノ死亡ノ場所ノ族稱ノ氏名ノ者トノ續柄		死亡者ノ氏出生ノ男女ノ本籍地		死亡ノ年月死亡ノ戸主ノ死亡ノ場所ノ族稱ノ氏名ノ者トノ續柄	
年	月	日	時	年	月	日	時	年	月	日	時
明治	年	月	日	明治	年	月	日	明治	年	月	日

(一)

簿名客旅		丸船	
船長氏名及住所	船舶所有者ノ氏名(名稱)及住所	旅客定員	積番
		合下中上	量號
		計等等等	航路定限
			船籍港

(二)

等級	等級	等級	等級	等級	等級	等級	等級	等級
氏名	旅客							
	國籍							
	住所							
	十二歲以上						年	
	五歲以上						齡	
	十二歲以下							
	五歲以下							
明治年月日	明治年月日	明治年月日	明治年月日	明治年月日	明治年月日	明治年月日	乘船	下船
							港	港

◎海事局官制

(明治三十二年六月十四日勅令第二百六十三號)

第一條 海事局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ船舶職員及水先人ノ試驗船舶ノ測度検査其ノ他法令ノ定ムル所ニ從ヒ管海官廳ノ事務ヲ掌ル

第二條 海事局ノ名稱位置及官轄區域ハ別表ニ依ル  
第三條 海事局官轄區域内須要ノ地ニ海務署又ハ出張所ヲ置キ局務ヲ分掌セシム其ノ名稱位置及管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

第四條 各海事局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 奏任 四人
- 海務官 奏任 專任 四十六人
- 書記 奏任 專任 三十二人
- 技手 奏任 專任 二十七人

第五條 局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス  
第六條 海務官ハ海務署長タル者ノ外海務局又ハ海務署ニ分

屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 海務官ハ臨時命ヲ承ケ遞信省管船局ノ事務ヲ助ク

第九條 海務署ニ署長ヲ置キ海務官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第十條 本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ施行ス

船舶司檢所官制及明治三十年勅令第二百二十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレタルトキハ船舶司檢所司檢官ニシテ船舶司檢所長ノ職ニ在ル者ハ海事局長ニ船舶司檢所司檢官及船舶司檢所司檢官補ハ海事官ニ船舶司檢所書記ハ海事局書記ニ船舶司檢所技手ハ海事局技手ニ任セラレタルモノトス

(別表)

海事局官制



海事局名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京海事局	武藏國 東京	東京府 神奈川縣 茨城縣 栃木縣 群馬縣 埼玉縣 千葉縣 茨城縣 山梨縣 新潟縣 靜岡縣 岐阜縣 長野縣 石川縣 富山縣 山形縣 福島縣 宮城縣 青森縣 岩手縣 秋田縣 山梨縣 長野縣 石川縣 富山縣 山形縣 福島縣 宮城縣 青森縣 岩手縣 秋田縣
大阪海事局	攝津國 大阪	京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 滋賀縣 福井縣 石川縣 加賀國一圓 鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 和歌山縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣 福岡縣 福岡縣 (筑後國) 熊本縣 長崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣
長崎海事局	肥前國 長崎	長崎縣 福岡縣 (筑後國一圓) 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣
國館海事局	北海道 函館	北海道 青森縣 秋田縣

○海務署ノ管轄區域

遞信省告示第七十六號  
 海事局ノ事務ヲ分掌セシムル海務署ノ名稱位置並管轄區域  
 左ノ通相定メ本日ヨリ施行ス  
 明治三十二年六月十六日 遞信大臣 芳川顯正  
 海務署名稱位置並管轄區域

名稱	位置	管轄區域
橫濱海務署	武藏國 橫濱	神奈川縣 三浦郡 鎌倉郡ヲ除ク
浦賀海務署	相模國 浦賀	神奈川縣ノ内 三浦郡 鎌倉郡
清水海務署	駿河國 清水	靜岡縣
鳥羽海務署	志摩國 鳥羽	三重縣

海務署名稱位置並管轄區域

半田海務署	尾張國半田	愛知縣	岐阜縣
石卷海務署	陸前國石卷	宮城縣	巖手縣
新潟海務署	越後國新潟	新潟縣	山形縣
伏木海務署	越中國伏木	富山縣	石川縣 (加賀ノ國ヲ除ク)
神戸海務署	攝津國神戸	兵庫縣	岡山縣 德島縣
高知海務署	土佐國高知	高知縣	
多度津海務署	讃岐國多度津	香川縣	
三津濱海務署	伊豫國三津濱	愛媛縣	
糸崎海務署	備後國糸崎	廣島縣	
赤間關海務署	長門國赤間關	山口縣	福岡縣 (筑後國ヲ除ク) 大分縣

境海務署	伯耆國境	鳥取縣	島根縣
口ノ津海務署	肥前國口ノ津	熊本縣	福岡縣 (筑後國一圓) 長崎縣ノ内 南高來郡
鹿兒島海務署	薩摩國鹿兒島	鹿兒島縣	宮崎縣 沖繩縣
小樽海務署	後志國小樽	北海道ノ内 北見國	後志國、石狩國、天鹽國

○遞信省告示第七十七號 (明治三十一年六月十六日)  
 船員法施行細則第五十條第一項ノ規定ニ依リ同則第四十九條  
 第一項第二號乃至第六號ノ手数料ヲ納付スヘキ場所左ノ如シ

一 海警局  
 二 海務署  
 三 前二號ニ掲クルモノヲ除ク外北海道ニ於ケル管海官廳  
 四 收入印紙ヲ以テ手数料ヲ納付スヘキ成規アル帝國領事館

○遞信省告示第七十八號 (明治三十一年六月十六日)

海務署名稱位置或管轄區域

本年<sup>五</sup>月<sup>五</sup>日 遞信省令第十九號第二條ニ依リ海員名簿其他ノ書類ニ  
關シ認可ヲ申請セントスル者ハ其住所ヲ管轄スル海事局ニ之  
ヲ爲スヘシ

◎管海官廳事務取扱所

(明治三十二年六月十二日 遞信省令第二十六號)

船員法第七十九條ノ規定ニ依リ左ノ市町村長戸長及之ニ準ス  
ヘキ者ヲシテ管海官廳ノ事務ヲ行ハシム

北海道

岩内支廳長(岩内郡岩内)  
室蘭支廳長(室蘭郡室蘭)

宗谷郡稚内村戸長  
根室支廳長(根室郡根室)  
荏原郡品川町長  
與謝郡宮津町長

東京都府

神奈川縣

三浦郡浦賀町長

三浦郡三崎町長  
三原郡福良町長

兵庫縣

東彼杵郡佐世保村長

南高來郡口ノ津村長

千葉縣

海上郡銚子町長

安房郡館山町長

管海官廳事務取扱所

茨城縣  
三重縣  
愛知縣  
知多郡  
熱田町長  
坂井村長

靜岡縣  
巖手縣  
青森縣  
山形縣  
秋田縣  
福井縣  
石川縣  
島根縣  
岡山縣  
廣島縣  
廣嶋市長

山口縣  
和歌山縣  
德島縣  
香川縣  
愛媛縣  
高知縣  
福岡縣  
佐賀縣  
熊本縣  
沖繩縣

那珂郡湊町長  
四日市市長

知多郡半田町長

賀茂郡下田町長  
上閉伊郡釜石町長

青森市長

鮑海郡酒田町長  
南秋田郡土崎港町長

敦賀郡敦賀町長

鹿島郡七尾町長  
隱岐嶋司周吉郡西郷

淺口郡玉嶋町長

尾道市長

都濃郡德山村長

東牟婁郡三輪崎村長

名東郡加茂村長

綾歌郡坂出町長

温泉郡三津濱町長

長岡郡三里村長

遠賀郡若松町長

東松浦郡滿島村長

宇土郡三角村長

那霸區長

◎船舶職員法

法律第六十八號

船舶職員法

第一條 日本船舶ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ船舶職員ヲ乗組

マシムヘシ 船舶職員ト稱スル船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及

第一條 船舶職員ト稱スル船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコト

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

- 甲種船長
- 甲種一等運轉士
- 甲種二等運轉士
- 乙種船長
- 乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

第四條 各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀

第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ試験

ヲ受ケ合格シ且海員名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦艇ニ乗組運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校

全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ海員試験規程ニ合格ス

ト認ムル者ニハ試験ヲ用キスノ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ海員試験ヲ受クル

コトヲ得ス又船舶職員タルコトヲ得ス

- 一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 三 瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者
- 四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條

高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得  
 甲種船長ノ免狀ハ他ノ船長及運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種一等運轉士ノ免狀ハ他ノ運轉士及丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種二等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種一等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種二等運轉士ノ免狀ハ丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、丙種船長ノ免狀ハ丙種運轉士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス  
 機關長ノ免狀ハ一等機關士以下ノ免狀ニ對シ、一等機關士ノ免狀ハ二等機關士以下ノ免狀ニ對シ、二等機關士ノ免狀ハ三等機關士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

第八條

處ス

左ニ掲クル者ハ二十圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ

- 一 第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員ヲ乗組マシメサル者
- 二 第二條及第四條ニ違背シ相當ノ海技免狀ヲ受有セスシテ船舶職員ト爲リタル者
- 三 第六條ニ違背シ船舶職員ト爲リタル者
- 四 海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者
- 五 海技免狀行使ノ假停止若ハ差押ヲ受ケ其ノ職務ヲ執リタル者

第九條

キス

前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用

前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

附則

第十一條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス  
 第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五

船舶職員法

號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及

明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號

表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期

ハ遞信大臣之ヲ定ム

前項ニ掲ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ

代用スルコトヲ得

第十三條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五

十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條 遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乗組ミ三

箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職

ヲ執リ年齡二十歳以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇

年ヲ限リ試験ヲ用キスシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコト

ヲ得

第十五條 遞信大臣ハ第一號表中近航海船ニシテ登簿噸數五

百噸未滿ノ汽船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽

船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ノ免

狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乗組

マシメサルコトヲ得

第一號表

遠洋航船				航路定限	船舶種類	登簿噸數	職員名稱	免狀種類	定員
帆船		汽船							
三百噸以上	三百噸未滿	三百噸以上	三百噸未滿						
二等運轉士	一等運轉士	一等機關士	二等機關士						
甲種二等運轉士	甲種一等運轉士	一等機關士	二等機關士						

船舶職員法

新舊免狀對照表	舊免狀	甲種船長 甲種一等運轉手 甲種二等運轉手 甲種一等機關手 甲種二等機關手 乙種船長 假免狀船長	新免狀	甲種船長 甲種一等運轉士 甲種二等運轉士 機關長 乙種船長 乙種一等船長 乙種二等船長 丙種船長
	免狀			

第二號表

航船	水平航船	航船
汽船	汽船	船
百噸以上	百噸未滿	二百噸以上
機關長	機關長	機關長
乙種一等運轉士	乙種二等運轉士	乙種一等運轉士

沿海	航海					近海
汽船	帆船		汽船			
二百噸未滿	百噸未滿	五百噸以上	二千石以上	五十噸以上 百五十石以上 二百噸未滿	五百噸以上	五百噸未滿 百噸未滿
機關長	機關長	一等運轉士	二等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	機關長
乙種一等運轉士	乙種二等運轉士	甲種一等運轉士	甲種二等運轉士	丙種運轉士	甲種一等運轉士	乙種一等運轉士



乙種一等運轉手	假免狀一等運轉手	乙種一等機關手	假免狀一等機關手	乙種二等運轉手	假免狀二等運轉手	乙種二等機關手	假免狀二等機關手	小形船機長	小形船機手
---------	----------	---------	----------	---------	----------	---------	----------	-------	-------

乙種一等運轉士	乙種二等運轉士	乙種一等運轉士	乙種二等運轉士	乙種一等運轉士	乙種二等運轉士	乙種一等運轉士	乙種二等運轉士	乙種一等運轉士	乙種二等運轉士
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

法律第六十八號參照

明治九年<sup>六月</sup>第八十二號布告ハ西洋形船船長運轉手機關手試驗規則、同年<sup>六月二</sup>  
 第九十四號布告ハ同規則追加、同十三年<sup>五月</sup>第二十八號布告ハ海軍非職准士官  
 以上官民ノ依頼ニ應シ西洋形船船ノ乗組員ト爲ル者ニ關スル件、同十四年  
 十二月<sup>十八日</sup>第七十五號布告ハ西洋形船船長運轉手機關手免狀規則ナリ

◎海員懲戒法

法律第六十九號  
海員懲戒法

第一章 總則

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事  
 項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘ

- 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス
- 三 之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
- 四 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
- 五 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方
- 法ヲ盡サ、ルトキ
- 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナク
- シテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡
- サ、ルトキ

海員懲戒法

六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七 亂醉粗暴其ノ他失行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 免狀行使ノ禁止

二 免狀行使ノ停止

三 譴責

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一 確定裁決

二 時効

第一條 各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條 時効ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ遞信省ニ置ク

第九條 海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク

審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル地方海員審判所ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル

海員懲戒法

百五十七

ル船舶ノ定繫場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス  
 同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スル  
 トキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノ、管轄トス  
 第十三條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ  
 他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得  
 前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由  
 シテ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘシ  
 高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便  
 益ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所  
 ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所  
 ノ管轄權ニ屬ス  
 第十四條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審  
 人ノ申請書ニ依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スル  
 ノ權アルヤヲ決定ス  
 一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特

二 別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得サルトキ  
 二 以上ノ地方海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セスト  
 第三章 審判前ノ手續

第十五條 船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村  
 長及浦役人ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリ  
 タルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地  
 方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ  
 第十六條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリ  
 タルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ管轄地方海員審  
 判所ノ理事官ニ報告スヘシ  
 第十七條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シ  
 タルトキハ證憑ヲ集取シ又必要ニ應シ實地臨檢スルコトヲ  
 得  
 第十八條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所  
 ニ申立ツヘシ

前項ノ申立ヲ爲ストキハ證憑其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第四章 地方海員審判所ノ審判

第十九條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル

場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

第二十條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ

引致セシムルコトヲ得  
引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ勾引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス

第二十三條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押アルコトヲ得

第二十四條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

第二十五條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

第二十六條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

第二十七條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十八條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 開庭中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス  
審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十一條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十二條 被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第三十三條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十四條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ズ

被審人刑事訴訟ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十五條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タス直ニ高等海員審判所ニ控告スル

コトヲ得

第三十七條 裁判ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第三十八條 裁判及判決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判

第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ判決ニ對シ

高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第四十條 控告ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ七日トス

關席裁決ニ對スル控告ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十一條 控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所

ニ差出スヘシ

原地方海員審判所ハ直ニ該申立書及一件書類ヲ高等海員審

判所ニ送付スヘシ

第四十二條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所

ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第四十三條 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ

原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ

控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六章 執行處分

第四十四條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

第四十五條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルキハ其ノ審判ヲ爲

シタル海員審判所ニ於テ審判ヲ取上ケ遞信省ニ送付スヘシ

免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海

員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿了ノ後之ヲ本人ニ還付

スヘシ

免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免

狀ヲ差出サハルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ

官報ニ告示スヘシ

第七章 罰則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出

サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由

海員懲戒法

ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡サ、ルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條

證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁

ル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁  
鋼ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定  
通事ヲ爲サシメタル者亦同シ  
前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前  
ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

附則

第四十八條

此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第四十九條

海員審判所ノ事務章程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條

此ノ法律施行ノ際西洋形船船長運轉手機關手免  
狀規則第十條ニ依リ審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ  
ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ

受ケタルモノハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所ニ控告  
スルコトヲ得

◎水難救護法

法律第九十五號  
水難救護法

第一章 遭難船舶

第一條 遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町

村長之ヲ行フ

第二條 遭難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滯ナク最近地

ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ

警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘ

シ

第三條 遭難船舶アルコトヲ認知シタルトキハ市町村長ハ直

ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第四條 警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村

水難救護法

長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第五條 救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ

不充分ナリト認メ又ハ船長ニ惡意アリト認メタル場合ニハ

之ヲ適用セス

第六條 市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物

件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從

ヒ救護ニ従事スヘシ

第七條 市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害

ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムル

コトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スル

コトヲ得

市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ

之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隠匿シタル者アリ

ト認ムルトキハ其ノ物件ヲ搜索シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ

得

第九條 市町村長ハ遭難船舶其ノ他救上ケタル物件及前條ノ

規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ

前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ遲滞ナク最近

ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第十條 船長ハ遭難後遲滞ナク船難報告書ヲ作り市町村長ニ

差出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セ

サル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遭難ニ付

テハ此ノ限ニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長

ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船内書類ノ提出ヲ命

シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲

スコトヲ得



第十一條 市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

一 物件久ニ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト

二 爆發物、容易ニ燃燒スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危険ノ虞アルコト

三 保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ  
遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ  
船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ左ニ掲クル者ニハ之ヲ適用セス

一 救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員

二 故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者

三 第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者

四 救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

五 遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條 左ニ掲クルモノヲ以テ救護費用トス

一 救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬

二 第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償

三 救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條 救護費用ノ支給ヲ受クントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間内ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ

前項ノ手續ヲ爲サル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ

定ム

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之

ヲ納付セシムヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキ又ハ船長在ラサルトキハ

前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村

長ノ保管ニ係ル金額其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受クヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ

供スルトキハ前項ノ金額其ノ他ノ物件ノ全部若ハ一部ノ引

渡ヲ受クルコトヲ得

左ニ掲クル物件ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ引渡ヲ受クル

コトヲ得

一 船員ノ所持品

二 船員及旅客ノ食料

三 運送貨ヲ支拂フコトナシクテ船中ニ携帯スル旅客ノ

手荷物

四 第十七條第二項ニ掲クル物件

市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ抵當ト爲シ又ハ

質入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受クヘシ

此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會

フヘシ

前項ノ處分ニ因リ取得シタル金額其ノ他ノ物件ハ市町村長

之ヲ保管スヘシ

市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金額ヲ保管

スル場合ニ其ノ金額救護費用ノ金額ニ達シタルトキハ直ニ

其ノ金額ヲ以テ救護費用ヲ支辨シ其ノ殘額ハ保管ニ係ル他

ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ

第十七條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期

間内ニ救護費用ヲ納付セサルトキハ市町村長ハ保管ノ物件

又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管ス  
 前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ  
 公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ハニ之ヲ適用セス  
 第十八條 市町村長ハ水難救護法ノ規定ニヨリ保管スル物件  
 ヲ公賣シ又ハ拾得者ニ引渡サントスル場合ニ於テ該物件關  
 稅未納ノ貨物ナル時ハ其種類並ニ數量及公賣又ハ引渡ノ場  
 所並ニ期日ヲ稅關官吏、稅關官吏現場ニアラサル時ハ收稅  
 官吏ニ通知シ且ツ稅關手續未濟ノ物件ナルコトヲ入札者又ハ  
 拾得者ニ告知スヘシ  
 第十九條 救護其ノ效ヲ奏セサルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ  
 之ヲ支給ス  
 船長又ハ船舶所有者救護費用ヲ納付セサル場合ニ於テ第十  
 七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金錢  
 ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ國庫ヨリ之ヲ  
 補給シ殘餘アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス

三十三  
 年三月  
 法律第  
 六十六  
 號以テ  
 改正

第一十條 本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タスシテ救護  
 ニ從事シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ  
 干與セサルトキハ此ノ限ニアラス  
 第二十一條 本章中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職  
 務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス  
 第二十二條 第一條乃至第四條、第五條第一項、第六條乃至第  
 九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項、第二項、第十  
 八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍  
 艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ準用ス  
 第二十三條 本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ  
 適用セス  
 第二章 漂流物及沈沒品  
 第二十四條 漂流物又ハ沈沒品ヲ拾得シタル者ハ遲滞ナク之  
 ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其物件ノ所有者分明ナル場合  
 ニハ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限リ直ニ其ノ所有者ニ引渡ス  
 コトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其物件ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得ルテハ其物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其物件ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得ル

第二十五條 市町村長ハ前項ノ物件ヲ引渡シ受ケタル物件ヲ保管スヘシ市町村長ハ其ノ所有ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須キサル其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須キサル

第二十六條 第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈没品ニ之ヲ準用ス

第二十七條 市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲナシタル日ヨリ一箇年以内ニ限リ所有者ハ河川ニ漂流スル材木ニアリテハ其價格ノ十分ノ一、沈没品ニアリテハ其物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額並ニ公告保管公賣又ハ評價ニ要

シタル費用ヲ市長村長ニ納附シテ物件ノ引渡ヲ受クルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ拾得者ニ河川ニ漂流スル材木ニアツテハ其價格ノ十分ノ一、沈没品ニアツテハ其物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ支給ス

第二十八條 前條ノ期間内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件ノ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ拾得者ニ告知スヘシ

拾得者ハ前項ノ期間内ニ公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受クルニ因リテ其ノ所有權ヲ取得ス

拾得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控

水難救護法

除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條 警察官吏ニ於テ航路、錨地又ハ建造物ニ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈沒品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ公告若ハ告知ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ年以内ニ所有物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ

前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第三章 罰則

第三十一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ徵用若ハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者

二 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條 第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條 第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 詐僞ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受クタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 刑法第三百八十五條及第三百八十七條ノ規定ハ沈沒品ニ亦之ヲ適用ス

水難救護法

三十三  
年三月  
法律第  
六十六  
號以正

漂流ノ物件ニ對シ現存スル記號ヲ塗抹毀損シ若シクハ新タ  
ニ附記押捺シタルモノハ二圓已上二十圓已下ノ罰金ヲ處ス  
水難救護法取扱手續補則

附則

第三十六條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 明治三年二月二十九日不開港場規則心得方條目

明治四年四月二十二日外國船漂著ノ節取扱方、明治八年第

六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ

日ヨリ廢止ス

第三十八條 此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依

リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定

第三十九條 此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京

都市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セサ

ル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

法律第九十五號參照

明治八年四月十四日第六十六號布告ハ内國船難破及漂流物取扱規則、同十年七月五日第

十五號布告ハ船難報告並ニ船難證書授受手續ナリ

◎海上衝突豫防法

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航  
シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス  
ト看做シ汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用キサルトキハ帆船  
ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用キザルトノ別  
ナク汽船ト看做スヘシ  
本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ  
本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁膠沙ニ非サル  
場合ヲ謂フ

船燈

本法中船ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂  
フ

第一條

船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日  
出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ  
外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條

一

汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ  
前檣若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘサルトキハ  
本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ  
若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサ  
ル所ニ亮明ノ白燈一個ヲ掲クヘシ然レトモ船體上四  
十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナ  
キ光ヲ發シテ船外ニ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ  
射光ヲ左右舷外ニ十點間ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷  
正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ五海里  
ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二

右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發  
シテ船外ニ十點間ヲ照スヘク製造シ其射光ヲ船ノ正  
首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少  
クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ  
左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シ  
テ船外ニ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正

三

海上衝突豫防

四

五

首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其燈ノ内側ニ装置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ

汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨綿上前後ニ隔テ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カ、ル船ノ船尾トノ距離六

第四條

百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央



ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ  
 モノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二  
 尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其  
 ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用井中央ノ一箇ハ白色豎菱形ヲ  
 用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レ  
 トモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避  
 クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十  
 一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二  
 條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ  
 白燈ヲ掲クヘカラス

第六條 小形船舶航中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ  
 難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ様點火シテ之ヲ手近カ

明治三十四年四月三日  
 法律第三十四號  
 第十條及第三項  
 本條第三項  
 正項シテ改ス  
 追加ス

ニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近  
 寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ  
 舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ様各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ  
 時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ルヘキ各舷正  
 横後ノ二點ヨリ後方ハ見得サル様ニ爲ヌヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色、  
 紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條 總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及  
 艦權ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二  
 項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若之ヲ  
 掲クサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一 四十噸未滿ノ汽船  
 甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷縁上九尺  
 ヨリ低カラヌ且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ  
 規定シタル構造装置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨ  
 リ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ

乙

第二條第二項第三項ニ規定シタル構造装置ニシテ  
 少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ緑ノ二舷燈ヲ  
 掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷  
 ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩  
 色燈一箇ヲ掲ケルハ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ  
 三尺下方ニ掲ケルヲ要ス  
 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷縁上九尺ノ所ヨリ下方ニ  
 掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キ  
 ヲ要ス  
 二十噸未満ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト舷燈ヲ用ウルトニ  
 拘ワラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用井タル燈  
 籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ  
 又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトハ衝突ヲ防クニ充分  
 ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光  
 ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス  
 舷燈ヲ以テ運轉スル船ハ舷燈一箇ヲ手近カニ備置キ衝突  
 トニ拘ハラズ白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突

二

三

四

ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ  
 本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲ルニ及  
 ハス

第八條

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ他船ニ要  
 スル燈ヲ掲ケ且十五分時ヲ越エサル間隙ヲ以テ閃火一箇又ハ數  
 箇ヲ發スヘシ  
 水先船ニハ右ノ外綠紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ  
 近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進  
 行スル方向ヲ示ス爲メ一時之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光  
 ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス  
 水先人ヲ要スル船ハ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ橋頭ニ  
 掲クル代リニ隨時之ヲ表示シ又舷燈ヲ兩舷ニ掲クル代リニ  
 一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カ  
 ニ備置キ前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得  
 水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲サ、ルトキハ其ノ積量ニ

海上衝突豫防法

應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

明治三年  
第十法  
律第四號  
十三年  
第三號  
本條以テ  
ス

第十條 他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ  
 白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ  
 本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レト  
 モ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常  
 ニ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及フヘキ様隔板ヲ裝  
 置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ  
 第十一條 長サ百五十尺未満ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得  
 易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ越エサル所ニ白燈一箇ヲ掲ク  
 ヘシ此燈ハ常ニ同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少ナクモ一海  
 里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス  
 長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ  
 且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ所ヨリ少クモ十五尺下方

ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ  
 本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルヘシ  
 船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乗揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙

第十四條 汽船畫間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引  
 下クサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若

第十條 汽船畫間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引  
 下クサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若

第十條 汽船畫間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引  
 下クサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若

第十條 汽船畫間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引  
 下クサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若

第十條 汽船畫間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引  
 下クサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若

海上衝突豫防法

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲ス

汽船ハ汽笛若ハ汽角 帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當

ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機

關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積

量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘ

シ霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタ

ル信號ヲ爲スヘシ 一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲

ヲ一發スヘシ 二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分

時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ

其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷

開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ

正横後ニ風ヲ受クタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

船舶碇泊中一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五

秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ 他船ヲ引キテ運航スル船舶海底電信線ノ布設若ハ引

揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄

リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ

運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シ

明治三十四年三月四日法律第十號  
第三法三  
第十號  
第五項  
第七項  
第八項  
第九項  
第十項

海上衝突防禦法

百九十三